

東金市第 3 次地域福祉計画・地域福祉活動計画の方向性

令和 3 年 3 月に策定した「東金市第 4 次総合計画」では、目指すべき将来像を「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続く My City 東金」とし、さらにまちづくりの基本理念、そして、施策大綱として 5 つの柱を示しています。

東金市基本構想の体系図

目指すべき将来像

豊かな自然と伝統を守り 未来へ続く My City 東金

まちづくりの基本理念

● 未来へ向かいポテンシャルを最大限に活かしたまち ● 誇りと愛着を持って暮らせるまち ● 地域とともに手を携え歩むまち

まちづくりの柱(施策大綱)

「子どもたちの今と未来を創る」

「稼ぎ・にぎわうまちを創る」

「街・道・自然が織り成す市域を創る」

「安全で健やかな暮らしを創る」

「こころ豊かなひとを創る」

計画の実現に向けて (5本の柱を機能させるための行政の取組み)

まちづくりの基礎・土台 (市民力・地域力・多様なコミュニティ力)

第 4 次総合計画の特徴の一つが、まちづくりの柱（施策大綱）を下支えする、まちづくりの基礎・土台となるものとして、「市民力・地域力・多様なコミュニティ」を明記したことです。

社会様式の多様化、複雑化、少子高齢化による影響が顕著となっている現在、これらの課題を解決するためには、市民一人ひとりの力の向上、地域のつながり、連携の強化が必要です。

そのような理由から、第 4 次総合計画では、本市が「未来へ続く」まちであり続けるために、「地域コミュニティの強化」を重要なものとして捉えています。

確かに、地域コミュニティは希薄化しています。事実、本市の自治会加入率も市全体で 6 割程度まで落ち込んでいます。希薄化の要因は一つではないとは思いますが、大きな要因としては、現代における「他者に対する無関心」さが挙げられると考えます。

コミュニティとは本来、共に助け合う事案への解決方策として自然発生してきたものです。そのような意味では、むしろ、全ての市民が対象であり、その当事者になりうる福祉分野こそ、持続可能なまちのために、地域コミュニティがもつ役割は非常に大きいと言えます。つまり、福祉分野における諸問題に対する解決こそ、ともに助け合う精神 = コミュニティの存在が大きく影響するのではないのでしょうか。

困った人がいたら声をかける。

手を差し伸べてともに解決に向かう。

人間本来の行動理念とも言える『互助』こそが、本市が抱える課題の解決策であり、従来の「自助・共助・公助」といった取組を支える、まさに土台としての地域コミュニティがもつ可能性を最大限に活かすための方策として捉えるとともに、これを第 3 次地域福祉計画・地域福祉活動計画が向かうべき方向性としてしたいと考えます。